

令和6年度第1回門真市ものづくり産業振興懇話会 議事録

- 日 時 令和6年10月10日（木）10時00分～11時8分
- 場 所 門真中町ビル2階 会議室C、D
- 出席者 皆川 健多郎 委員（大阪工業大学 情報科学部データサイエンス学科
教授）
- 赤堀 彰則 委員（守口門真商工会議所 中小企業相談所 所長）
- 杉本 直紀 委員（株式会社天辻鋼球製作所 総務部 副部長）
- 牧野 洋一 委員（牧野精工株式会社 代表取締役社長）
- 芦田 伸之 委員（枚方信用金庫 門真東支店 支店長）
- 大平 昌幸 委員（近畿経済産業局 地域経済部地域経済課 課長）
- 古田 大 委員（大阪府商工労働部 中小企業支援室
ものづくり支援課 課長補佐）
- 町田 光弘 委員（大阪府 大阪産業経済リサーチセンター 総括研究員）
- 事務局 高田 隆慶 市民文化部 次長
- 柏原 佳太 市民文化部 産業振興課 課長
- 吉田 武史 市民文化部 産業振興課 課長補佐
- 児島 悠二 市民文化部 産業振興課 主任
- 川端 俊一郎 市民文化部 産業振興課 主査
- 藤島 努 市民文化部 産業振興課 係員
- 田中 秀弥 市民文化部 産業振興課 係員

1 開会

司 会： 定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回門真市ものづくり産業振興懇話会を開催させていただきます。本日はご多忙中にも関わりませず、ご出席賜り誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、市民文化部産業振興課長の柏原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員10名中8名が出席されており、門真市附属機関に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。本懇話会の公開・非公開につきましては、昨年度開催いたしました第1回の本懇話会において、公開と決定しておりますので、本日の会議は公開となります。また、議事録を作成させていただくために、会議を録音させていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、お手元にお配りしております資料のご確認をお願いいたします。まず初めに、1枚目が本日の会議次第でございます。

次に、資料１ 門真市ものづくり産業振興懇話会委員名簿でございます。

次に、ホチキスで止めた、資料２ 門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等についてでございます。

次に、同じくホチキスで止めた、資料３ 門真市ものづくり産業振興計画アクションプラン（案）でございます。

最後に、参考資料といたしまして、門真市ものづくり産業振興計画の冊子でございます。

資料につきましては、後ほど順次、議事進行の中で使わせていただきますので、よろしくお願いいたします。もし、不足の資料がございましたら、お申し出ください。

２ 委員紹介

司 会： それでは、ここで出席委員の方々を、お手元、資料１の名簿順にご紹介させていただきます。お名前をお呼びさせていただきますので、簡単に自己紹介をお願いいたします。まず、学識経験者の委員から紹介させていただきます。皆川委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 続きまして商工業団体を代表する委員を紹介させていただきます。赤堀委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 続きまして事業者を代表する委員を紹介させていただきます。杉本委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 牧野委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 続きまして、金融機関を代表する委員を紹介させていただきます。芦田委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 最後に関係行政機関の職員の委員を紹介させていただきます。大平委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 古田委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： 町田委員でございます。

委 員： <挨拶>

司 会： なお、本懇話会の会長、副会長につきましては、昨年度に引き続き、会長は皆川委員、副会長は大平委員に務めていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後に市の職員のご紹介をさせていただきます。門真市市民文化部次長 高田でございます。

事 務 局： <挨拶>

司 会： 産業振興課課長補佐の吉田でございます。

事 務 局： <挨拶>

司 会： 同じく主任の児島でございます。

事 務 局： <挨拶>

司 会： 主査の川端でございます。

事 務 局： <挨拶>

司 会： 藤島でございます。

事務局： <挨拶>

司 会： 田中でございます。

事務局： <挨拶>

司 会： 改めまして、私、産業振興課長の柏原でございます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

3 案件

案件1 門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等について

司 会： 続きまして、次第3の案件に移らせていただきます。以降の進行は皆川会長にお願いしたいと思います。会長よろしく願いいたします。

会 長： それでは次第の3、案件1 門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等について、を議題とさせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

事務局： はい、では門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等について、説明をさせていただきます。お手元にお配りしております資料2こちらカラー刷りの資料をご用意ください。本日ですね、メインの議題となっております門真市ものづくり産業振興計画のアクションプラン、こちらの審議の前にですね、まずアクションプランについてということで趣旨をご説明させていただこうと思います。まずですね、この資料めくっていただきまして2ページ目門真市ものづくり産業振興計画の体系（参考）となっているページをまずご覧ください。昨年の計画の策定にご意見いただきました門真市ものづくり産業振興計画につきましては、昨年度の3月に策定をいたしまして、今、順次公表、周知等を図っているところでございます。こちらの表はですね、その計画のいわゆる体系を示したものになっておりまして、ちょっとこちらの方で改めてご説明させていただこうと思います。門真市ものづくり産業振興計画は、基本理念を門真全域ものづくりのテーマパーク構想と掲げまして、こちらに向けましてですね、まずこの表の一番左側、基本戦略として3つの柱を立てております。1つ目がイノベーション、2つ目、ネットワーク連携、3つ目、基盤の集積、強化ということに定めております。それで、それぞれの基本戦略にですね、基本的な具体的施策ということでですね、それぞれ、イノベーションであれば4つ、ネットワーク連携であれば1から5の

5つですね、基盤集積、強化に関しましては、1から6をそれぞれ具体的政策として掲げております。で、一番右がそれに対してですね、具体的な取り組みを具体的施策ごとに、ものづくり事業者の皆様、そして2つ目として我々行政、そして3つ目、支援機関とですね、それぞれが取り組むべき内容を計画の方にいわゆる定性的に記載しているというような内容になっております。それで、すいません、1ページ目の方、戻っていただきまして、では、アクションプランの位置付け、計画との関連についてご説明させていただきます。この三角形のピラミッドなのですが、こちらは先ほどの体系を示したものになっておりまして、特に一番下の取り組みで特に行政が取り組むべき項目、こちら15項目ございまして、こちらを、今日ですね、皆さんご意見いただきたいと思っております、アクションプランにまとめているというような形になっております。それぞれ取り組みに関しまして、今現状で行っている施策であったりとかですね、これからやっていくべき施策、事業であったりですね、そういったものをスケジューリングいたしまして、一覧にいたしまして、アクションプランを作成しております。こちら、アクションプランに関しましては、後ほどまた改めてご説明させていただきます。では、こちらの資料3ページをご覧ください。で計画の進捗管理につきましては、こちら、行政の方でも行っております、いわゆるPDCAサイクルを回していくということで、具体的な取り組みの設定、そして実際の取り組み、それを評価、点検、チェックということで、取り組み、成果、課題、経済情勢の変化等を把握いたしまして、そして取り組みの評価、見直し、それをまた行動に反映させていく、プランに反映していくというサイクルを回すと。基本的なPDCAサイクルで、今後ですね、5年間、この計画の進捗管理をしていくということに設定しております。そして、続いてKPIでございます。こちらは数値の目標でございますが、ものづくり産業振興計画の中にですね、KGIといたしまして重要目標達成指標、こちらを設定しております。こちら、2点設定しておりまして、計画の冊子の68ページのところにKGIを書いております。こちらは市内製造業の付加価値額ですね。2つ目が市内製造従業者1人当たりの付加価値生産性、こちらが大阪府全体の伸びを上回るということを昨年KGIの目標値として設定をさせていただきました。全体の経済の対応を拡大するというのが1つ目の指標でありまして、もう1つは生産性を上げていくという、この2本の柱でKGIを設定しております。このページの中でもですね、基本戦略ごとの取り組みの成果を図るKPIを別途設定ということで書いております。で、今回、その資料の3ページのところですね、KPIについてということで、それぞれの3本柱にKPIを設定しております。で、1つ目のイノベーションといたしましては、サポートセンターの相談件数、そして創業の支援件数、2つ目のネットワーク連携のところは、門真市ものづくり企業ネットワークの参加者、3つ目の基盤集積強化におきまして

はですね、産業誘導区域への移転等の件数、そしてオープンファクトリー参加の延べ社数ということで挙げさせていただいております。現状値はこちらに記載している通りでございます、令和6年度の目標値をそれぞれ書かせていただいております。令和7年度以降のKPIの数値におきましては、このものづくり産業振興計画の上位計画でございますいわゆる総合計画、門真市第6次総合計画との整合を図るためですね、原則として総合計画との連動を図りまして、この計画とは別に、総合計画の中で産業の振興ということを我々も別途定めて数値を定めておりまして、そちらと連動する形で、年度ごとにですね、実施計画という形で定める目標値をここに別途埋めていくということで考えております。市としても、上位計画の総合計画と連動、一致した形ですね、産業振興計画の方も進捗の管理を図ってまいりたいと思います。そして、最後にですね、計画の普及、周知の取り組みということで、4ページをご覧ください。計画の方はもちろん門真市のホームページへの掲載を行っております。今お配りしております製本版本編、この太い方の冊子になるんですが、こちら500部作成いたしまして、概要版は、挟み込んであります薄いものなのですが、こちらを1,000部作成いたしました。今年度からですね、企業様の訪問の際であったりとか支援機関の皆様と連携する際、中には学生さんがちょっと勉強に来られたりとか、そういった機会がございますので、そういった機会を捉えまして配布、説明を行っております、9月末現在、220部を配布しております。そして、ちょっとメディアの方、日刊工業新聞社様にもですね、記事として取り上げさせていただきまして、令和6年7月25日付で門真市の紹介ということで記事にさせていただいております。以上が、門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等についてということで、説明とさせていただきます。ありがとうございます。

会 長： ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありました、門真市ものづくり産業振興計画の進行管理等について、何かご質問、ご意見等はおありでしょうか。

委 員： ちょっといくつか質問させていただきたいのですが、進行管理等っていうのと、この後説明のあるアクションプランっていうのがホームページとかに掲載されるのでしょうか。

事 務 局： そうですね。今日、アクションプランの案をですね、皆様のご意見をいただきまして、その意見を反映させていただきまして、市の方でまず決裁という形ですね、アクションプランを定めまして公表して参る予定でございます。

委員：　そういうことでしたら、またちょっとお聞きしたいのですが、まず最初のイノベーションのところで、中小企業サポートセンターの相談件数の目標があって、そのあとに創業支援件数が、これ外数で書かれているイメージなのかなと思うのですが、創業支援件数だけを外数にされている理由はあるのでしょうか。

事務局：　サポートセンターの相談件数はですね、もうその文字の通り、サポートセンターで1年間に相談を受けた件数になっておりまして、創業支援件数は実は、もりかど産業支援機関ネットワークというものがあまして、そちらは、門真市役所ももちろんそうなのですが、サポートセンター、商工会議所様、地域の金融機関様、こちらは門真市と守口市域になるのですが、その創業支援をやっていくと、そのフォーメーションの中での相談支援件数になりますので、全てがサポートセンターで支援した件数ではないです。一部はサポートセンターで支援した創業件数もこの中には含まれているはいるのですが、その他の支援係数も合算しているので、数字の拾い方としては別というイメージになります。

委員：　わかりました。で、もう1個なのですが、門真市ものづくり企業ネットワークのKPIが101から105となっているのですが、これ、この後のアクションプランの方でまた説明があるのかと思うのですが、確かに課題のところに参加企業が少なくて、偏っているとかっていう課題は入っているんですけど、この参加企業が少なくてという表現で、このものづくり企業の企業数を増やすっていう意味合いとは少し違って、今入っている会員企業の中での参加数が少なくてというイメージだと思うのですが、そういう意味で言うと、そのネットワーク事業数を増やすという目標に置くよりは、例えばですけど、定例会に参加する企業数、延べじゃなくて、入った数だとか、会員大会に参加する企業数であるとか、そういったところを目標にした方が実態に合うんじゃないかなという気が少ししています。

事務局：　ご意見ありがとうございます。そうですね、こちらの方、総合計画の中の実施計画といたしまして、これも公表されているのですが、これは参加者数でカウントしているのが現状でございます。ただしですね、いただいたご意見、ちょっと後ほどのアクションプランの中のご意見として、ちょっと我々の方で検討させていただければと思います。例えば定例会とか部会の参加率とか、色々な指標が考えられますので、こちらの方で検討させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

委員： もう1点よろしいでしょうか。私自身は、あんまりこだわりはないのですが、結構誤解を生みそうな気がするのが、ここに門真市ものづくり企業ネットワーク数 KPI でこうします、で、アクションプランの中でも具体的アクションというところに、門真市ものづくり企業ネットワークによってこういう活動します、みたいに書いてあるところがいくつかあるのですが、そうすると、やっぱりそういうのを見ると、この門真市ものづくり企業ネットワークの位置付けっていいのですか。これ多分今、市の機関ではなくて、独立した機関で門真市にアドバイザーとして入っていただいているというような位置付けだと思うのですが、これがこういう風に書くと、どうしても市の事業っていうか市の機関のような誤解を与えてしまわないかなっていうのがちょっと気になったのですけれども。

会長： はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。そもそも、これ、門真ものづくり企業ネットワークっていうのは、任意団体なのでしょうか。

事務局： そうですね。任意団体となっております。官民連携のネットワークということでは我々捉えさせていただいております。門真市の事業計画を、そして実施計画を年度ごとに定めていく事業なのですが、そちらの方にも一応市の事業として、門真市ものづくり企業ネットワーク事業ということでは、我々それに基づいて予算があつたりとか進捗管理をしたりとかということになっておりまして、公民協働っていうかですね、そういう捉え方になるのかなとは思っております。ただし、委員がおっしゃる通りですね、やはりものづくり事業者様の取り組みということの要素も中にはあると思うので、この資料に戻るのですが、取り組みのオレンジ色の部分で、ものづくり事業者の取り組み、行政の取り組み、支援機関の取り組みってことで分けていまして、(1)に該当するものづくり事業者様の取り組みに該当する部分、あと(2)行政が取り組む部分の側面っていうのは、この計画に照らしした場合、両方にまたがっているものなのかなという風には考えております。

事務局： ちょっとフォローさせていただくのですが、ものづくり企業ネットワークも、今回オープンファクトリーのファクトリズムも、我々として、さっき説明させてもらった通り、あくまでも官民で連携でやっている事業だという風に捉えています。ここに載せているのは、ちょっと事業名の問題もあると思うのですが、元々市が立ち上げさせてもらって一緒にやってきたことが、今、企業主体に変わってきているけども、我々も支援事業として、オープンファクトリーに関しても門真ネットに関してもやらせてもらっているんで、あくまで支援事業、市が支援している事業として、ここのアクションプラン載せているってイメージか

など考えています。ただ、企業さんが今主体で動いているのですが、一緒に連携事業ということで支援しているので、ちょっと支援事業として載せてもらっている感じかなと思います。表現をちょっと考えてもいいのかなという風には思っております。

会 長： ありがとうございます。よろしいでしょうか。先ほどの2点目のところですね。ものづくり企業ネットワーク参加者数というのも、そもそもこのネットワークは入会制かなんかなのですか。

事 務 局： はい、そうです。申込書を書いていただきまして、ネットワークの世話人会の方で了承を得れば入会という形になります。

会 長： じゃあ、例えば入会者数ということですか。この参加者数というのはどちらかというところ。

事 務 局： そうですね、入会された企業の総数という形になりますね。

会 長： そうなのですね。今、委員の方からご指摘あったのは、その入会者数のうちの参加者数ということであるとすれば、ちょっと言葉の使い分けをして、で、委員はまずは参加者数を増やすべきではないかと、こういうご指摘だったのかなと思いますので、一度その辺りを確認をいただければという風に思います。

事 務 局： はい、わかりました。

会 長： 他にご意見いかがでしょうか。

委 員： よろしいでしょうか。今の話題に関していくと、入会者数ってどれぐらいになったらいいと考えていますかね。今全企業数は600ぐらいでしょうか。

事 務 局： 677ですね。

委 員： ということは、今2割未満程度ということで、どれぐらいが妥当なのかという議論をしていただいて、そこに向かってどう増やしていくのかというのを考えていくということが必要ではないでしょうか。今100を母数として、そのうち活発に動く層がどの程度いて、活発に動く層を増やしつつ、入会者を目標に向けて増やしていくという議論をしていくのがいいのじゃないかなという風に思

います。これは意見なのですけど。で、もう一件、KPI ってこれで決まりですか、ここで諮るってことですか。

事務局： はい、ご意見をいただく形になります。

委員： 面白くないなあというのが正直なところですよ。せっかくものづくりテーマパーク構想、目立つところにクリエイティブな化学反応って書いてある。ものづくりと何かをかけて、このイノベーションであったりとか、ネットワーク、連携を広げてイノベーションにつなげていくとかですね、基盤集積、強化しながら、また連携をしてイノベーションを生み出していく。それが、化学反応を起こっていくっていうことにつながるのだと思うのですけども、そうすると、この相談件数が増えました、新規創業支援件数が増えましたっていうのでいいのか。もう少しこのクリエイティブに、化学反応っていう風に言っているのであれば、ここに書いてある、ものづくりかける何かで何が生まれたかっていうところを拾うようにしとかなないと、せっかくの掛け声のところ、中身に魂が入らないんじゃないかなという風に思います。具体的にその拾い方が難しいっていうのはあるのですけども、新規事業がどう生まれましたとか、連携したポイントがうまくできましたとか、そういうのを実際に拾うっていうことが出来ると思いますし、個別施策の中ではDXとかGXとか新分野とか、新たな経営の中にデジタルをどう取り組んでいくかっていうようなことも入れているのであれば、そういう取り組みをした企業であったり、そういうキーワードについて何かを拾うっていうのはあると思います。それから、基盤作りのところでも人材の話が色々できていて、これから恒常的に人手不足という状況になるのは間違いないと考えます。取り組みを進めるにあたっては、例えば学校へのアプローチを公民連携でやっていくなんていうのも入っていたかと思いますけども、そういうところで、公も入りながら、高校とか大学とどれだけコミュニケーション取っていきましたというようなことも、1つ指標にもなってくると思うし、取れる指標を取ることではなく、これからこうチャレンジングでやっていくってところを入れていくってというのは1つじゃないかなと思うのですけど、いかがでしょうか。

事務局： ご意見ありがとうございます。委員おっしゃられましたクリエイティブな化学反応ということで、我々4月からですね、実はこのクリエイティブな反応っていうのを我々の方で、これが反応したなっていうのを、チェックしているようなものがございまして、こういったものも活用しながら、委員のご意見を検討させていただきたいなという風に思っております。

委員： 難しいところがあるとは思いますが、テーマパークという言葉を使って、クリエイティブな化学反応なんていることを言うのは非常に分かりやすいし、目指すところっていうのを共有、共感しやすいと思うのですが、企業さんにもこういうところに取り組んでねとチャレンジを求めているのであれば、役所としても指標の中に少しチャレンジングなところを入れといてもいいのかなと。企業さんであったり、あと支援機関の方々にも刺さりやすいのかなという気がします。

委員： 委員おっしゃる通り、数値に表れにくいところがいっぱいあると思うのです。そのあたりをどう表現して、枚方信用金庫だけじゃなくて、今この辺りは産業支援機関、他の金融機関とも仲良くさせていただいて、最近、門真市さんとも同行する機会が増えてきたり、近畿経済産業局とも訪問する機会が増えてきているので、私らはどんどん訪問していきますので、ちょっと話脱線しているのですが、実はうちも、枚方信用金庫自体も人材が不足しているところで、実は大阪国際大学さんは、門真市ではなく守口市なのですが、そちらのゼミの方から依頼を受けて企業を2社ほど選定させてもらっていて、門真市1社と、大東市の企業1社です。実はそこは金融機関に入りたいっていう方も一緒に訪問したのですが、そのあとに教授さんが訪問したら喜んでいただいて、もう1回教授さんがお礼のあいさつに行くと、中小企業さんでありながら、新卒の人も入りたいというような、そこはちょっと大東市の企業さんやったのですが、そういうマッチングっていう、雇用の面でちょっとマッチングという成果出てきていますので、幅広く、なのでこの参加者とかそういうのじゃなくて、何か本当に実際に顧客に、企業さんに役立っているような成果ですね、ができればいいなと思っています。

会長： ありがとうございます。そういう意味でも、KGI からですね、KPI になっているわけですが、もともとのあるべき姿ですね。令和10年のこれを数値で表すとするとどういうことになっているのかっていうあたりを少し明確にして、で、いわゆるバックキャスト型ですね、令和6年の時点ではどうあるべきなのかというところが KPI として出てくれば、非常にストーリーとしては解りやすいかなと。で、そういう意味では、7年以降は少し、計画とのリンクとかですね。ある意味わかりやすいのですが、逆にこの取り組みは先にゴールを決めておりますので、そのゴールに対してですね。ちょっと今一度 KPI については、そういう意味では、まずは令和10年ですね、どうあればこれが実現できているのかっていうところを少し整理しておく必要があるのかなという風にご意見を聞きながら思いました。

事務局： ありがとうございます。では、KPI につきましては、いただいたご意見等を踏まえ、こちらの方で調整をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

会長： そういう意味では、KGI も、ややですね、大阪府の全体の伸びを上回るというような、ちょっと控えめな表現にはなっているのですが。ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございました。

案件2 門真市ものづくり産業振興計画アクションプランの策定について

会長： 続きましてですね、次第の3、案件2門真市ものづくり産業振興計画アクションプランの策定についてを議題とさせていただきます。事務局よりご説明お願いいたします。

事務局： はい、説明をさせていただきます。こちらにつきましては、門真市ものづくり産業振興計画のアクションプラン案、資料3をご準備ください。こちらに関しましては、事前にメールでも送付させていただいたものから、関連 URL の行と、計画書に記載している具体的施策と行政の取り組みの行は、今回割愛をさせていただいております。ただし、お送りさせてもらったものと、今、お手元にご準備させていただいているものは、左側の行番号は変わっておりません。この後、ご意見いただく際につきましても、行番号でおっしゃっていただけたらスムーズかなという風に思います。この表の説明になるのですが、この一番左の基本戦略、門真市ものづくり、3つのC戦略というのは計画で位置付けている3本柱のところになります。で、その次、具体的施策というのが、計画で言いますと、こちらの資料2のピラミッドの緑色の項目になります。そして、取り組みというのがそれぞれ定められているのですが、この具体的施策ごとに、既存か新規かということで、すでに我々の方で着手していますというのは、既存の事業、そして新規といたしましては、これから、それぞれの目標の達成に資するような取り組みの案、現段階での案というのをそれぞれ挙げさせていただいております。それで、そういう具体的アクション、その右側が説明ですね、こちらは具体的アクションについての詳細の説明で、次に現状、実績の欄ですが、こちらは、実際に行っているものであれば、今置かれている状況であったり、数値的な実績で、新規に関しましては、こういったもの、ああいったことが必要であろうということも記載しております。開始年、それぞれの事業のスケジュールであったり、予定ですね、

こういったものをアローで示さしていただいております。一番右側の課題に取り組むべきことってというのが、その目標に向かっての現状の課題であったり、その解決に向けて実施していかなければならないということでのものを挙げております。今回、お配りしている資料でも、7ページにわたってですね、分量の方が多くて、事前の送付も遅くなって大変申し訳ございません。こちらについてですね、ご意見をいただきたいところではございますが、詳細の説明は割愛をさせていただこうと思います。今回計画を策定する中で、アンケート調査の中でも非常に課題の多かった、先ほど委員の方からもお話ございました人材の部分ですね、ちょっと改めてご説明をさせていただこうかなと思います。4ページですね。こちらの行番号22のところからが、基盤・集積強化の中の人材確保・育成というところを挙げております。現状といたしましては、門真市の職住近接のまち企業魅力アップ補助金というものでですね、企業における職場環境の改善とか魅力の向上、新しい求職者にそれを打ち込んでですね、新しい求職もしくは学生のエントリーを促進していこうというものでございます。去年、制度創設いたしましたして、令和5年度実績としては延べ10社の企業にご活用いただいているということになっております。2つ目としましては、合同企業就職説明会面接会ってということで、毎年、門真市と守口門真商工会議所様、そして守口市、ハローワーク門真とで、共同事業により、中小企業を中心とした地域の企業と求職者のマッチングを支援しておりまして、今年度は速報値ですが、11人の雇用が実現したという実績がございます。そしてその次は、門真市ものづくり企業ネットワークの中の人材確保・育成事業部会の取り組みということで、こちら、部会を組織いたしましたして、地元の高校訪問、約10校回らせていただきました。今年度に関しては、外国人採用のノウハウの共有であったり、大学へのアプローチも強化しているところでございます。そして、学校と教育機関、職業訓練機関との連携ということですね、大学さん、高専さん、高校、中学校、ポリテクセンター関西様とか技専工様といったところと連携をいたしまして、その求職者の獲得に動いているという活動でございます。特に中学校の職場体験であったり、教員の2年次研修ということで、近年活発に動いております、こちらの方も企業も非常に積極的に受け入れをしていただける、今、世の中としてもそうになっているなという実感がございます。こちらの方も引き続き進めていくということです。最後に、新たな人材確保支援策ということで、非常にバクツとした書き方になってはいるのですが、こういった流れが出てきている中で、門真としても、企業様の人材確保、育成の支援っていうことが何かできないかということで挙げさせていただいております。今、人材の部分の特出しさせていただいたのですが、これ以外のところも含めましてですね、何かこの中でご意見とかご指摘とかですね、いただければという風に思います。以上でアクションプランの説明となり

ます。ありがとうございます。

会 長： ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありました門真市ものづくり産業振興計画アクションプランの策定について、何かご質問、ご意見等あるでしょうか。

委 員： すいません、2点ありまして、1点目が、これは優先順位みたいのはあるのですかね。やられる内容すごく多岐に渡っているのですけれども、その優先順位みたいのがあるのかどうかっていうのが1点で、もう1点がですね、各具体的アクションに対する個別のその目標みたいな、中長期的な目標っていうのはあるのかどうか、管理されるのかどうか。その2点、ちょっと教えてください。

事 務 局： はい、ありがとうございます。1点目、こちらの方は、優先順位を個別の事業ごとには設けているものはございません。で、もう1つですね、それぞれに対しての目標ということで、事業に対しての目標値っていうのはこちら それぞれに作るということも検討はさせていただいたのですが、今のところ KPI としては、その3つのC戦略の1から3の中で KPI を設定しているということが現状でございます。

委 員： 例えばですね。ものづくり企業ネットワークへの参加者数が増えたけれども、例えば受発注システムの取引ですかね、マッチングですかね、それがゼロとかということもあり得るということですかね。例えば17番なのですけど、ネットワーク連携のところで、ものづくり企業ネットワークの参加者が指標と思うのですが、そのこの今の実績に KPF が載っていると思うのですが、この KPF を引き続きやるということではないのですかね。これ現状、実績のところに載っておるの。

事 務 局： 17番ですね。こちらの方は、市内での実施例ということで、新たな域内受発注推進施策の検討ということで、説明のところで具体的にこんなことが考えられるかな、ということは挙げさせていただいておりまして、委員ご指摘のとおり、現状、実績のところで市内での動きとして、こういった動きが参考としてありますよと。この考え方に近いものが今市内で行われていますよという説明のようなものになっておりまして、これは、この KPF に関しては完全に事業者様が今取り組んでいるものなので、例えばこういったものが新たにまた市内で生まれるような環境づくりを進めていくかどうかとか、そういったことが実際市として取り組むべきことにつながってくるのかなという風に思います。ですので、こち

ら KPF さんはちょっと例として挙げさせていただいているという形になります。

委 員： わかりました。

会 長： ですので、各アクションについては具体的な目標数値というのは示していないの
ですけれど、これらのアクションを通じて先ほどの KPI を達成していこうと。
ですから、KPI のところで見るとということで構築はされているわけですけど、委
員の方からは、各アクション自体ももう少し何か指標があった方がいいのでは
ないのですかというようなコメントだと思います。その辺、また一度ご検討いた
だければと思います。その他いかがでしょうか。

委 員： 8 番の創業支援のところ支援 64 件、創業 41 件と具体的に書いていただい
ているので、もしここまで書けるのであれば、さっきの KPI のところに、その創業
41 件の数値を記載してはいかがでしょうか。そのうえで、実際に創業に至るの
にどういうことやったかとか、相談に来てくれたけど創業に至らなかった場合
にどういう問題があったかということがわかれば、何をすればいいかを考える
のに参考になるかなと思いました。難しいのでしょうか。

事 務 局： いえ、今回ですね、総合計画との実地計画との連動ってということで書かせて
いただいているので、これを公表するってことは全く問題ないですので、そうい
った委員のご意見いただきまして、そういったアウトカム的な指標ですね、支
援がアウトプットであれば、創業件数っていうのはアウトカムな指標になると
思いますので、そういったものを指標とすることを検討させていただきたいな
という風に思います。ありがとうございます。

会 長： ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

委 員： 先ほどの委員の質問と似ているといえれば似ているのですが、これから、今、
多分令和 6 年でスタートしたっていう時だと思うのですが、これから令和 7、
8、9、10 と、こういうレビューの場があると思うのですが、令和 10 年にそ
れぞれどういう目標になっていたかという姿が必要だと思うのですが、
で、その後の、その細かいマイルストーンみたいなものを各項目に作るかどうか
は別にして、この現状、実績っていうところに対しての評価項目みたいなところ
はいっぱいあっていいのかなと思うのです。思い通りに進みましたっていう、思
い通りの実績ですっていうのか、いや、思いのほか進んでいませんっていうのか、
予想以上に進みましたっていうのか、そういうところがあって、で、この項目は、

いや、なんとかなりそう、この項目はなんかすごいハードルが高そうとか、そういう色分けとかができていくと、この先、アクションを取る時の重み付けとか、そういうのが整理しやすいのじゃないかなと思うのですけど。どうでしょうか。

事務局： はい、そうですね。先ほどご意見いただいたものとも含めまして、ちょっとするように、年度ごとに、メリハリがあるというかですね、きちんと進捗管理していく。そして、最後の年度っていうもののビジョンっていうのもちょっと明らかにして、バックキャストしてそれぞれ評価していくっていうような仕組みに関して、この作り方を検討したいなと思います。

事務局： すみません、少しフォローさせていただきます。今回、アクションプラン最初なので、これを作って来年ですね、このアクションプランに対しては必ず評価を、どうだったかというのはいしますので、もちろんこれにつきましても評価の項目は入れていく必要があるという風に思っております。

委員： ちょっと一例なのですが、先ほどの合同就職面接会で、去年の実績が4名、今年が前いただいた書類だと1名になっていた、今回11名になっていたと思うのですが、今11名っていうのは、どんな感じなのです。まあまあ、こんなもんだらうっていう感じなののでしょうか。

事務局： そうですね、ずっとこれを実施しております、結構、かなり予想外というか、かなり数字が増えたなっていう風な感触はございます。速報値ですので、おそらくこの時期なので、もうこれで確定なのかなと思うのですが、実績は上がったのではないかなという風に受け止めています。

委員： わかりました。ありがとうございます。

事務局： 参加者数もそもそもの面接会に来られる実際の数も増えているということで、そのイベントの浸透であったりとか、ハローワークさんの方から求職者の誘導であったりとか、そういったところが集客につながったのかなという風に思っております。

委員： 商工会議所でも一緒にやらせていただいておりますので、この数字に関する感想なのですが、もうかなりコロナ前に戻るぐらい、今年は人が多く集まったという感じで、マッチングも1桁ぐらいかなと思っていたのですけれども、思ったより、かなり多くマッチングしたような印象を受けています。

会 長： ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

委 員： 具体的アクションプランということですけど、1つ生の声ということで、中小企業サポートセンターで相談件数っていうのがあると思うのですが、それに対してアクションプランがどうマッチしているかとか、そういったその結びつきみたいな、で、どっかでなんかそういう測定されるのか、これからされるのか、その辺はちょっとお聞きしたいなど。

会 長： 各アクションプランとのリンクですよ。それってなんかどっかにあるのでしょうか。

事 務 局： すいません、委員おっしゃられているところというのが、このアクションプランの中のサポートセンターの部分でしょうか。

委 員： それは1つそうなのですけど、そこに集まる意見っていうのは生の声っていう考え方で、それとこういう計画を組んでくださっているそういうアクション、具体的アクションというのがそういうところとマッチしているかっていうところ です。

事 務 局： わかりました。そうですね。サポートセンターは非常にいろんな企業様の経営とか技術であったり、人材、多岐にわたる支援を行っておりまして、相談件数の毎年内訳が変わっています。数値的にも近年であれば本当に人材の相談がやっぱり多いとか、生声であれば本当に人材の獲得が非常に苦労しているとか、そういったやはり傾向とか、声がございますので、ここの中でも、そういったサポートセンターで相談支援の中で吸い上げたというか、抽出したそういった傾向っていうのは、この今回、例えば人材のところでもちょっと重点的にということでご説明させていただきましたけども、そういったフィードバックは常にさせていただいているという形になります。

委 員： わかりました。

会 長： ありがとうございます。その他、いかがですか。

委 員： これ、アクションプランの中で、重点とするアクションプランを決めようと思っているのでしょうか。

事務局： この案には、先ほど委員のおっしゃっていた優先順位とかはつけておらないですけど、非常に多岐にわたることなので、もちろんその重点化とかそういったものは、考え方として検討はさせていただきたいなと思います。

委員： 市としてもこれ、施策として打ち出していく時に、特にこう力を入れたいものっていうのは、お金もかかってくるでしょうし、当然、市民の皆さん、議会の方々にも説明していかないといけない時に、特に全体の中でこれってキーになるのですよ、肝になるのですよっていうところはしっかりと、さっきの評価も含めて示していく必要があるのではないのでしょうか。特に既存施策はそうだと思うのですけれども、既存施策の中でもとりあえず並べているものがあれば、やっぱここしっかりやっていかなあかん、やってのだけでもさらに強化していかなあかんっていうところはしっかり書き込んでいって、訴えていくっていうことをしないと、市内の企業さんにもなかなか刺さんないと思いますので、そういう整理をしていただければという風に思います。特にこの各項目、具体的なアクションの中でも、横に連携できるものっていうのが色々あると思うのですね。例えば人材だけを見ても、学校教育との云々かんぬんと書いている中でもですね、今年ファクトリズムなんかに大学に協力してもらったっていうのがあるようですが、こういうのを活かしていって、個別の企業さんの少し課題になるところに入っていってもらっていうのもできるかもしれないですし、ファクトリズムを単体で見るといっていいじゃなくて、ファクトリズムと人材の確保につなげるような動きって、他の自治体では取り組んでいる事例もあります。だから、ファクトリズムのそこでは、ファクトリズムの目的が書いているのだけでも、相互に効果のあるものについては重点として掲げるようにしたいと思いますし、人材の、特に学校教育関連機関を巻き込んだ取組をする。例えば、大学生を中小企業が獲得しようとしても3年次から大企業と競争しても勝てないという事を伺います。小学校、中学校の時から地元の企業をしっかり知ってもらってという活動、こういうのにしっかり取り組んでいるところもあるのだと思います。親御さんにも理解してもらえし、地元の企業に就職したいなと思わせるような仕掛けを早くからやっていく。そういうところであれば、この放課後クラブみたいなものもあるでしょうし、高校と連携、高校訪問は、ネットワークの中でも取り組んでおられますが、そういうのを強化しながら、特に高校生にオープンファクトリーに来てもらうといろんな複合的な仕掛けができると思うと、それぞれの項目が全部活性化するのではないのでしょうか。混ぜるというか、化学反応と言っているのだったら、政策の化学反応を起こしていくっていうことを考えながら、そういうのでできるところを重点にするっていう考え方で、進めていかれるというの

はあるのかなという風に考えています。

事務局：ありがとうございます。そうですね、連携ということでちょっと発言させていただきたいのですが、例えばデジタル、DX への活用とか脱炭素とか、あと人材の面ってというのが、感じているのが、そこの企業さんが、どういう風に業務を棚卸しして、実際に何が弱点なのかとか、どういったものが足りてないとかっていうのをまず明らかにする。そこに必要な人材をフォーカスして集めていったりとか、ここの部分を IT 化するとかってというのは、このいわゆる業務の見える化をみんなでやるっていうことが、非常に重要という風に感じていて。そういったところってというのは、やっぱり連携っていう形ですね、1つそこをつつけばいろんなものが解決していくというようなものっていうのはちょっと感じている部分があります。人材の部分に関しても、やはり目の前の人材ってなかなか取るってというのが困難なのですが、やはり小学生とかに、門真ネットの方でも、小学生に対してものづくり体験とか、将来の長い投資にはなるのですが、その子がものづくりに憧れとか、企業さんを知ってもらって、また帰ってきてもらうっていう、やはり今から手を打つとくべきものなので、そういった優先順位つける際にも、ちょっと参考にはさせていただきたいなという風に思います。すいません。ご意見ありがとうございました。

委員：今の流れでいくと企業の事業の棚卸しはすごく大事で、サポートセンターの業務の重点として、また指標にも入れておく。そこから派生して、人に関してもデジタル化に関しても戦略が出てくるかもしれない、そういうことを立付けの中に入れていかれるといいのじゃないかなと思います。

事務局：ありがとうございます。

会長：ほかにご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。非常にアクションプランですね。1行目から、最後は44行目ということですね。非常に多岐にわたっております。で、一方で、門真市さんも、すでに以前から多数の事業の取り組みで、この説明のところの黒丸のついているものは、基本的にですね、実施中のものがございますので、ここで、この整理させてですね。一方で、新規のものがですね、ほぼほぼ令和6年からスタートになっているので、これだけ本当にできるのかというのがですね。実は行政の15項目これ以外にですけれど、ものづくり事業者の15項目、それから支援機関の14項目、ここにも行政として支援が入るわけですので、ちょっと焦らずですね、着実にこれらをやっていくということで。そういう意味でも、令和10年ですね、ここのゴールつ

ていうのを、今一度明確にして、そこから計算していくことが、計画を立てていくということが大事なのかなっていう風に皆さんのご意見をいただきました。そういう意味では、委員からご指摘あった重点項目をですね、やはりちょっとプライオリティをつけて順番にやっていく。で、既存のものもこれは委員からありましたが、何を強化していくのだとかってですね。ですから、黒丸の二重丸があるのかということかもしれませんけれど、なんかちょっとそういった辺りを少し整理いただいて、見直し、ご検討いただければなという風なご意見ではないかなと思いました。

よろしゅうございますでしょうか。ではありがとうございました。本日いただいたご意見の反映や その他のアクションプランの修正につきましては、事務局の方でまとめさせていただき、後日メールにて委員の皆さんにお示したいと思います。ありがとうございました。

案件（３）その他

会 長： 続きまして、案件の３その他に移させていただきます。事務局より連絡事項等あればお願いいたします。

事 務 局： 今後の予定につきまして説明させていただきます。第２回の懇話会の開催につきましては、年度末を目途に開催予定としておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

会 長： ただ今の説明についてご意見等おありでしょうか。

委 員： 資料２とか資料３の修正したものは会長一任でよろしいでしょうか。

会 長： よろしいですか。一任いただけるのであれば市側と一度相談をして、皆さんにその後ご連絡させていただきたいと思います。はい、ではそういった形で進めさせていただきます。ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。無いようですので、以上をもって本日の懇話会は終了いたします。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

以 上